

第14回京都山城便教会

平成 39 年 2 月 25 日 (土)

第 14 回京都山城便教会は、前回と同じく長岡京市立長岡中学校で実施しました。参加者は 13 名で、うち 3 名がはじめてのトイレ掃除。最初に自己紹介を行い、今回のテーマを以下のようにお伝えしました。

今回のテーマは「節目」です。もうすぐ年度末を迎え、どのように今の学級・学年を終えるのか、そして 4 月からは新たな出会いが待っています。そんな節目の時期に何を思うか。トイレ掃除を行いながら、そんなことも少し考えてやっていきましょう。



まずは道具の説明から。「やわらかいものから順番に」という説明をさせていただきながら、生徒に対しても知らないうちに傷つけていることがないか、スポンジで十分なのに、ドライバーで必死に削っていないか、問いかけをいたしました。参加者の皆様は真剣に道具の説明を聞きつつ、ご自分の生徒のことも考えておられました。

今回のトイレも、なかなかの手強さでした。はじめての方は一瞬ためらいながらも、他のみなさんが取り組んでいる姿を見て、覚悟の左手をそえながら、トイレ掃除に入っていました。

スタートしてからは、ひたすら便器と向き合う時間。最初は戸惑いを見せた初心者も、いつの間にか没頭し、それに比例して、トイレはみるみるきれいになっていきました。そしてサンドメッシュで磨く音と先生方の息づかいが絶妙なハーモニーを生み出していました、

<Before>



<After>



そして、今回もおばあちゃんからのプレゼント。前回のときに、「これで金属部分の汚れがよく落ちるから」といただいたものを使わせていただき、また感想をお送りしたら、今回はさらに多くのプレゼントが届きました。「おばあちゃんも生き甲斐のように、喜んで作ってくれていて。良かったらお持ち帰りください。」とおばあちゃんのお気持ちをいただきました。

参加はされていないけれども、応援していただいている方がおられる。それがまた嬉しく思えました。支えていただいている方に本当に感謝です。



<参加者の感想>

- ・初めての参加でしたが、最初に入ったトイレの空気感と終ってからの空気感が全く違うことに驚いています。最初はとまどいもありましたが、やってよかったです。
- ・恩師からトイレ掃除を教わり、どのようにすれば自分の教えている生徒に伝えられるかずっと考えていて、今回も参加させていただきました。明日からも生徒にできることを一緒にやっていきたいと思います。
- ・今回のテーマは節目ということでしたが、1年の節目ということもありますが、小さなことに節目を作ることが大事だと感じました。トイレ掃除をやっている時でも、「この部分を何分間」というように自分で決めてやれば、そこに節目ができて、ただ単にやるのと違ってくると感じました。日々の中でもしっかりと節目を作っていきたいです。
- ・先日、「節から芽が出る」という本を読みました。節があるから強くなれるし、そこから芽が出てくる。自分と照らし合わせながら、節目を大切にしていきたいと感じました。
- ・見える部分は成果が見えるので、頑張れるけど、見えない部分は「これぐらいで」と思ってしまう自分がいました。でも、そこに臭いの元があるので、「もう少し」と思うものの、再び「これぐらいで」という気持ちになり、最終的に自分と戦っていました。日ごろから、見えないところを思うようにしたいと思います。



今回もあっという間に時間が過ぎていきました。そして、清々しい気持ちにさせていただきました。しかしながら、こうやって3か月に一度、このような気持ちを味わうのではなく、毎日実践し、一喜一憂しない自分づくりもしていくことを誓って、学校を後にしました。

次回は5月に実施。参加者の中で、自分の学校でやっていただきたいというお声をいただきました。こうやって、色々なところにつながりを持ち、今後も活動の輪を広げていきたいと思っています。

(小笹大道)